

富士見市文化芸術振興委員会第2回会議録

日時	平成28年2月24日（水）18：30～20：30
会場	鶴瀬公民館 第1集会室
出席者 (欠席者)	<p>■委員（順不同・敬称略） 加藤 健司、大橋 民子、野村 亨、氣賀澤 明子、佐藤 公誠、肥田 義武 関 知枝、星野 貴洋、東海林 尚文、高橋 敦子、長坂 靖夫、吉川 節男</p> <p>■事務局 市川地域文化振興課長、中嶋副課長</p> <p>■講師 キラリふじみ 松井館長</p> <p>《欠席者》</p> <p>■委員（順不同・敬称略） 秋元 節子、小倉 洋一</p>
会議内容	<p><第2回文化芸術振興委員会></p> <p>1 開 会 中嶋副課長 2 あいさつ 市川課長 3 議 事</p> <p>（1）富士見市の文化芸術について～キラリふじみの取組み～（講演形式） 講師の松井憲太郎氏にキラリふじみの取組みについてお話をいただいた。 （詳細は別紙参照）</p> <p>委員）農業・商業と文化芸術の連携に興味があり、サントリーホールでは、コンサートとマルシェを一緒にやっている。民間では難しい部分もあるので、公共施設でできたら面白いかなという期待がある。</p> <p>委員）難波田城公園の活用に関わっている。コンサートを企画しているのだが、出演者を見つけるのが大変。キラリと何か連携したい。</p> <p>松井館長）音楽に関する事業は演劇関係に比べると少ないが、年に1回クラシックのコンサートや、事前にロビーコンサートや公開リハーサルをやっている。もう一つは地域創造が音楽活性化事業の登録アーティストを派遣する事業をやっている。プロジェクトとして、文化会館がコーディネート機能を果たす事は十分ありえるし、難波田城と連携することもできる。来年度は、アソシエイトアーティストの白神ももこさんがダンスカフェということで10回、毎月1回ずつくらいで小さな作品を上映する。それを連携してもいい。</p>

難波田城の古民家でリーディングをできる。手持ちの材料を活用するだけでも何かできると思う。

委員) キラリが開館してから、14年経つが多くの市民の方は、キラリは商業的な一般興業だと思っている人が多く、中で何をやっているかあまり理解していないのではないか。公民館や交流センターでキラリの宣伝を兼ねて、事業を行うなどキラリと地域との結びつけるような事が出来ると良いのでは？

松井館長) 広報活動は今以上にやったほうがいいと思う。ただ、現実的な課題もあり限界もある。市民劇や、子ども向けのワークショップで解決しているとしている。今までキラリに一回も来たことがない人に見に来てもらうのは予算や労力が必要だが、でも、リーディングや、ワークショップに参加してもらうことで、確実に観客になり、活動をサポートする人たちに繋がっている。また、共催事業も色々な活動に繋がられる。直接お話をしてお金でなく連携で一緒にやりましょうということがすごく多い。それには対話が重要だが、時間がかざらされている事が大きな問題。私としては、こういう場に呼んでいただくのは、大きなチャンスだった。今後この委員会で具体的なビジョンも出てくると思うので、もう少し話が進んだところで、キラリは何ができるかを検討していきたい。

委員) これは音楽も演劇も美術もそうだが、市内に住んでいるアーティストの発掘をする方法を考えなければならないのではないか。

松井館長) こちらが把握していないだけで、すでにそういったネットワークはある。また、東海林委員も「地球のことづて」を通じて、会うことができた。あの企画をやらなければ、出会いはなかった。市内には本当に面白い人たちがたくさんいらっしゃると思っていて、今いる人たちと何かをやるってことだけを考えても、かなり色々な事のできるのではないかと思っている。

委員) メインホールとマルチホールの稼働率はどれくらいですか？来る人は少ないですね？

松井館長) 7割8割です。スタジオは1日14時間の開館時間中に、ほぼ100パーセント使われている。文化施設の稼働率として比べても利用率はかなり高い。入場者ものべ13万人もいるので、決して少ないわけではない。

(2) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、事務局から連絡した。

(3) その他

4 閉 会 加藤委員長